

## 人生で一番長かった三段山

2016年5月29日

L 木村圭子 M 稲葉 長倉

もうシーズンを終えようとしているこの時期。何とかもう一度スキーがしたいなと思い滑れそうな山を探していた。人を誘うと大変なことになった時にカッコが悪いから、一人で行こうと思っていたのだが、例会でみんなの顔を見るとつい口が滑ってしまった。

そして山行当日、超快晴！以前、テレの先生が十勝の山の雪の状態を見るのに望岳台でチェックしていたのを思い出し、まずは望岳台に。三段山が黒い時はサブ案で前十勝の千春沢。Oh～、三段の東の谷、白いじゃないですかっ！てことで予定通り三段山へ。

白銀荘周辺はすっかり雪が溶けていたので、くじら尾根の沢ならば雪が詰まっているはずと思い、まずはシートラして前十勝に向かう登山道をすすむ。富良野川の手前まで行くが狙いの沢には雪ない。でも踏み跡もあるからそのうち雪も出てくるはず。っと藪漕ぎ始める。背丈を優に超す笹の藪漕ぎ。スキーは引っかかるし、全然進まない。しょうがないからトラバースして登山道を目指す。1時間余り意味のない藪漕ぎしてようやく登山道（C1120m）に出た。あ～やってしまった、二人に申し訳ないやら、非常に消耗して帰りたい気分。でもここでやめたらかっこ付かないしい。取りあえず登山道を進む。所どころ雪が出てきてスキーを履くが東の谷に降りれるようなところもなく残雪に導かれ西の方に向かう。何度かブッシュに阻まれ、右往左往する。ドローンがあればとても便利だろうに。

C1300m、2段目の下あたり。もう行く手はブッシュだらけ。今いる小さな小尾根の西側に沢が



あるのでのぞきに行ったが広大な緑。ここまでくるのに3時間かかっている。もう帰ろうと言った矢先、長倉さんが隣の沢に雪がある言う。信じられないけど藪の薄そうなところを探して尾根を越したら本当に雪があった。しかもずっと続いている！長倉さん、お手柄！！長身の人は先が見通せる。

その雪の詰まった沢筋（C1350mあたりを涙壁と呼ぶようだ）をずっと詰めてC1673mまで登り、ボールの地形になったところで終了。

下りはC1250mまでは快適なスキー。それから下はまたブッシュ。スキーはいて無理やり下る。稲葉さんなんて笹スキー状態、。C1070mでとうとう観念してスキーを抜ぐ。ブッシュを漕ぎながら6時間半ぶりに白銀荘に戻る。人生で一番長い三段山でした。付き合ってくれたお二人さん、お疲れ様でした、ありがとうございます。また変な山行に行きましょうね！（木村 圭子）

▽